

PRAEVIDENTIA DAILY (4月17日)

昨日までの世界：ポンドはやはりベストパフォーマーへ

昨日は個別材料で各通貨がまちまちの動きとなった。ポンドは、英2月失業率が6.9%と前月の7.2%、市場予想の7.1%を大きく下回ったことから急上昇し、対ドルで一時1.6818ドルと、今年2月17日の高値(1.6823ドル)に迫る水準となった。ポンド/円も172.11円へ上昇したが、年初来でみると上値が切り下がり下値が切り上がる三角保合的な状況が続いている。

他方、カナダドルは、カナダ中銀の金融政策決定後に下落した(政策金利は市場予想通り1.0%に維持)。今年1QのGDP予想を前期比年率+2.5%から+1.5%へ引下げたり、「カナダドルの更なる下落が(輸出に対する)追加的な支援となろう」という表現がカナダ中銀のカナダドル安選好を示していると解釈されたことがカナダドル下落の一因とみられる。もっとも、カナダ中銀は同時に、インフレ見通しを大きく引き上げており(下図を参照)、声明文でもCPIが2%の目標に向けて上昇する見通しが示され、タカ派的な面が強かったとみられ、昨日のカナダドル下落には違和感がある。

豪ドル、NZドルは、中国1QGDPが前年比+7.4%と前期を下回ったものの市場予想(+7.3%)を若干上回ったこと、そして世界的に株価が上昇基調となったこともあって、欧米時間にかけて対米ドルで持ち直し基調となった。但しNZドルは、昨日早朝発表のNZ1QCPIが前年比+1.5%と前期の+1.6%から鈍化し市場予想も下回ったことから急落していたことから、結果としてほぼ前日終値に戻った程度となっている。

ドル/円は、東京時間朝方から102円台へ上昇した。麻生財務相が6月からはGPIFが動き出す、と国会で発言し、債券から株式へ運用がシフトされるとの期待感から日経平均の押し上げ要因となり、また資金の一部が外国証券の購入にも充てられるとの期待感にも繋がったようだ。日経平均とドル/円の連動性が比較的高かったため、因果関係は逆だが、株高を眺めた円売りという面もあったとみられる。この間、米経済指標はまちまちで、住宅着工、建設許可は各々94.6万件、99.0万件と市場予想を下回った一方、鉱工業生産は前月比+0.7%と市場予想を上回ったため、ドルに対して方向性を与えなかった。Yellen議長発言では、雇用、インフレ目標の未達成合いが大きいほど、また達成が遅いほど、FF金利を低水準に維持する期間が長くなる可能性があるとし、ややハト派的な内容となったが、市場の反応はあまりなかった。米地区連銀報告では、一部で冬場の悪天候からの持ち直しが報告されたが、大半(8連銀)の景況判断は拡大だが緩慢あるいは緩やか、と変わらず、市場の反応は限定的だった。なお、GPIFに対する市場の期待は大きい、運用資産の拡大が期待できない中で、債券を売却して得られた資金はまず国内株式に振り向けられ、外国証券に振り向けられるのは小さいとみられること、また債券売却は大規模にはならないとみられることから、市場はいずれ失望し円反発に繋がるとみている(当社4月5日付週次レポート「円：GPIFの失望リスク」を参照)。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.3	+0.00	+0.00	+0.00	-0.01	-0.00	+0.01	+1.0	+3.0	+0.0	+0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	+0.01	+0.01	+0.00	+0.01	+0.01	-0.00	+1.7	+1.0	+0.2	-0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.4	+0.04	+0.04	+0.00	+0.04	+0.04	-0.00	+0.7	+1.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	-0.00	-0.00	+0.00	-0.01	-0.02	-0.00	+1.0	+0.2	+0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	-0.02	-0.02	+0.00	-0.03	-0.03	-0.00	+1.0	+0.2	+0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.3	-0.00	+0.00	+0.00	-0.01	-0.00	+0.00	+1.0	+0.0	+0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：カナダのインフレ上昇を確認へ

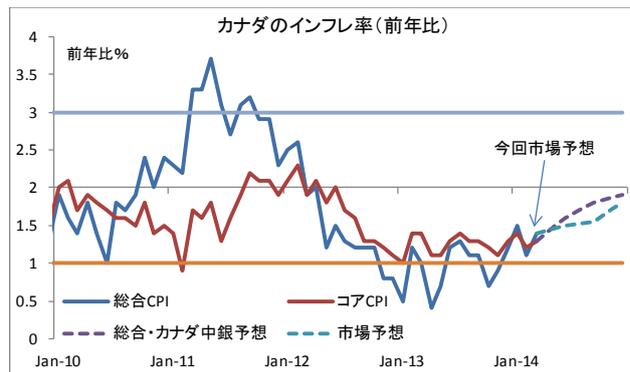
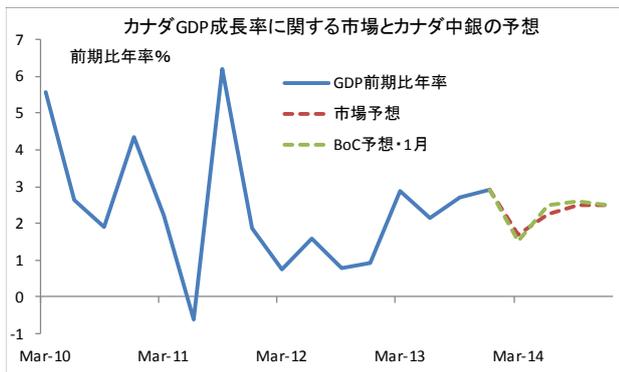
注目通貨：USD/CAD ↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
黒田日銀総裁発言（支店長会議挨拶）	9：00			
カナダ3月総合CPI・前年比	21：30	+1.1%	+1.4%	
同・コアCPI・前年比		+1.2%	+1.3%	
米新規失業保険申請件数	21：30	30.0万件	31.5万件	
米4月フィラデルフィア連銀製造業サーベイ	23：00	9.0	10.0	

（出所）プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は比較的材料が少ない。黒田総裁発言が予定されているが、支店長会議挨拶であるため目新しい内容にはならないだろう。ドル/円は昨日、101円台後半から102円乗せへ小幅上昇したが、強い方向感はない。新規失業保険申請件数は減少基調の中で反発・増加が予想されているが、更に減少して30万件を割り込んだり、フィラデルフィア連銀サーベイも既に発表されたNY連銀分の悪化にも拘らず改善する場合には、102円台半ばへの続伸もあり得るが、そうでない限り102円台前半でのみ合いが続くだろう。

その他、カナダでは昨日のカナダ中銀金融政策決定に続き**カナダCPI**が発表される。カナダのCPIはこのところ市場予想比上振れ傾向となっており、今回も前月から伸び率が高まる見込みとなっている（カナダ中銀のインフレ目標は1-3%）。カナダ中銀も昨日、最新の成長率・インフレ見通しでCPI見通しを引き上げ、市場予想よりも強化したが（**下図を参照**）、カナダドルは売られていた。こうした中、本日発表の実勢インフレ率が更に上振れすると、昨日のカナダドル下落がおかしかったことになり、利上げ期待を高めカナダドルは反発するだろう。現在市場では、来年入り後に利上げ開始予想となっており、来年7-9月期の利上げ開始がコンセンサスとなっているが、それが前倒しされるとみられる。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641